

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 6月30日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204409		
法人名	有限会社 ピースフル		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	広島市安佐南区相田五丁目5-9-8 (電話) 082-872-3014		
自己評価作成日	平成28年4月10日		
評価結果市町受理日	平成	年	月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	
------------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成28年 6月27日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開設以来、会社理念の「安心・安全・楽しむ」を元にご利用者の皆様と楽しく生活しております。事業所理念として認知症等により生活支援が必要となられた方々が、「大人として」生活できるようにを目標とし、派手さはありませんが「普通」を目指し日々取り組んでいます。そのため、レクリエーションや大きな行事に重点は置かず、日々の買い物、調理、外出、趣味等お一人お一人の生活歴の中から興味のある事を探し取り組み、自然と身体が動く事を目標にしております。起きたい時に起き、寝たい時に眠り、出たい時に出る、食べたい時に食べる、遊びたい時に遊ぶ等普通の欲求が実現できるよう職員も一緒に楽しみながら毎日を送っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

- 経験豊富な介護職員の支援と家庭のような生活環境がある。
    - ・平成15年の開設から13年の経験を持つグループホームである。
    - ・利用者のやりたいこと・出かけた所へ行くことを支援する仕組みがある。
    - ・利用者を普通の「大人」として尊重・尊敬する理念を掲げ、実践している。
    - ・家庭のように買い物をし、食事を作り、職員も一緒にいただく食生活がある。
  - 地域との協力関係が構築されている。
    - ・防災訓練、運営推進会議、地域行事、事業所行事など、多面的かつ頻りに交流が行われ、地域の一員となっている。
- 利用者の思いを尊重し、管理者やベテラン職員を手本に若手職員も育成されている事業所であり、今後も地域の認知症対応施設として活躍を期待したい事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安心・安全・楽しむを事業所理念とし、小規模の特性を活かし、個々の時間を自由に、自分のリズムで過ごせるよう取り組んでいます。	4年半前の事業所改築・再スタート時に以前の理念から「安心・安全・楽しむ」という簡潔でわかりやすい理念にまとめ、事務所内に掲示したり、パンフレットに記載するなど、職員や関係者間で共有している。また、新人職員には理念から指導を行い、普段も管理者から率先して理念を実践することで職員に浸透させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域のお手伝い等できるよう心がけると同時に食材や日々の買い物等地域のお店に利用者の方と一緒に向いたり、地域のサロン、公民館行事等にも積極的に参加しております。	自治会に加入し、毎月の地域清掃と不定期開催の地域防災行事に職員が参加、運動会・お祭り・盆踊り・敬老会・サロンなどは利用者と職員が参加している。また事業所へもバーベキュー行事などを開いて地域から参加いただいたり、慰問訪問を受けるなど、地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	不定期ではありますが地域の方対象に認知症サポーター養成講座を行い認知症の理解、支援方法の啓発に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会の協力が大きく、民生委員の方も含め、積極的に意見を頂き、施設行事等にも参加をしてくださり、地域行事もよく声をかけていただいています。推進会議会議内でも活発な意見交換ができております。	年6回開催し、利用者・複数の自治会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・他の事業所管理者などに参加いただいている。現状報告や意見交換、行事・防災などの打合せなどを行って、事業所運営に役立てている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	提出書類等郵送ではなく、直接持って行っておりますが、密な連携等には繋がっていないため今後の検討課題となっています。	手続きや相談など、滞り無く協力いただいている。提出書類は直接足を運んで関わりを持つように努めている。認知症アドバイザーの資格を持ち、協力依頼があれば講師などを努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や、日々の申し送り、外部研修を通し職員一人一人が身体拘束について正しく理解できるよう努めています。また、行動障害等が見られる場合もカンファレンス等に対応方法を職員で話し合っております。施錠は夜間以外は行わず、開放的な環境を提供できるよう努めています。	2年に1回程度、職員を外部研修にも参加させ、その報告会を開いて全職員へ教育している。新人職員には利用者の立場を体験させる教育を行っている。事業所内に接遇委員会・インシデント委員会を設け、声掛け方法などを話し合っており、職員会議で全職員に展開している。日中は施錠しないケアを実践している。	外部研修や利用者体験など、古参職員にも実施して、新たな知識や気づきを得る機会を増やすことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様、職員会議、日々の申し送り、外部研修を通し、虐待防止に取り組んでいます。同時に職員のストレス等たまっていないかを日頃から管理者が注意しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修を中心に理解の場を増やしておりますが、職員全員への周知は出来ておらず、現在も研修等参加を促しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に必ず話し合いの場を設け、メリット、デメリットをしっかりと説明させていただいております。入居後も極力、ご家族との会話の場を持つことで、不安や誤解等に繋がらない様努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を設置し、意見等記載できる場を設け、また、日々の利用者、家族の方との意見交換の中で、情報を把握し、職員会議等で話し合うようにしています。	家族の面会は多い場合は毎週、少ない場合は年1回程度である。面会時には必ず利用者の状況報告や要望を聞いている。電話連絡も行っている。毎年家族に集まっていたら食事会も開いている。毎月利用者毎に手紙を書いて郵送し、今後は事業所新聞も発行する予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月管理職だけではあるが各部署より集まり、意見交換の場を設け、各職員等の意見を報告しています。	毎月のユニット会議と全体会議にて話し合ったり、意見を聞く機会がある。また、毎月法人の管理者会議を開き、代表者を含む情報・意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の実績等を代表者に報告し、不定期ではあるが昇給等行われています。代表者は基本的には現場管理者に概ね任せており、制限が少なく、働きやすい環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	不定期ではあるが、代表者が現場を訪れ、各職員の力量等の把握に努めている。研修等は管理者の判断で定期的に組み込んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	多くはありませんが、管理職に対しては他事業所との交流機会を設けてもらっています。現場を含めていくと、管理者が中心となり、他グループホームとの人事交流や、合同研修会を開催しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に必ず、ご利用者様との面談の場を設けています。その際に不安、要望等をお聞きし、当事業所で、出来る事を提案させていただきながら、一緒に解決策を探すことで関係作りの一歩とさせて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に必ず、面談の場を設けています。ご家族の抱えている不安等をしっかり判断、把握に努め不安の、要望等ご家族の思いの解決、軽減に努め、安心して利用していただけるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	外出支援や、中での活動を含めその時々でのご要望等に対応できるよう心がけています。訪問マッサージ等他サービスも必要に応じ、積極的に活用しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人の大人として接することを大切にし、出来ない事よりも出来る事を重視し、生活歴や性格から支援方法をけんとうしています。職員の時間を見つけ会話や、外出等を一緒に楽しんでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に対し、何かを強要することはなく、毎月、写真と文章で現状の報告をし、面会時等積極的に会話をし、情報の共有を行っています。同時にご本人、ご家族の家族関係の再構築の場となるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日勤1人をフリーで配置し、いつでも外出等出かけられるよう準備をし、生活歴を元に、趣味等好きな場所、事柄が行えるよう支援しています。	利用者の希望を受入れて、花の購入や生け花・野球観戦・台所仕事・映画鑑賞・カラオケ・ボーリング・アストラムライン乗車など、できること・行きたい所への外出をすぐ実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コミュニケーションが苦手な方は職員が間に入り、関係を築いたり、仲の良い方達はお部屋でお話をされたりしています。また、関係が悪化した際は席を変える等配慮します。狭い空間で、長く過ごされる場の為なので、特に注意をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事業所としてはいつでもお越しく下さいと、お伝えはしますが、多くの方は退去後関係性が切れてしまうことが多いです。退居の理由によりますが、フォローすることもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生花、お漬物作り等、個々に合わせ取り組んでいます。また、ビールが飲みたいが、疾患的に困難なので、ご本人と相談し、ノンアルコールビールを飲まれている等。本人の意向を最優先とし、ご家族、医療面での問題がなければ可能な限り実施を行っています。	入居時にアセスメント情報をまとめて、利用者の生活歴や希望を把握し、介護計画や日常ケアに反映させている。利用者の希望は外出、食生活、趣味等可能なことはできるだけ迅速な実行支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	仕事にきていると思われる利用者様には職場として、家と思っておられる方には家として等、生活歴、生活習慣を元に、環境や起床、睡眠、食事時間等、ご本人の生活リズムを作っていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	フロアで皆様と過ごす方、目的があり、居室で過ごす方等、強制的に1つの場を集めるのではなく、個々のリズムで、落ち着く場所で過ごしていただいています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が1人で計画作成を行うのではなく、定期的にカンファレンスを行い、意見交換を行う中で、介護計画の作成をしています。その際、問題点ばかりに意見が偏らないよう心がけています。	最初の介護計画は、病院でケースワーカーや家族・利用者を含めたサービス担当者会議を開くなどして暫定版を作成し、1～2週間の状況を見て正式版を作成している。以後、原則6ヶ月毎あるいは必要時に現状に即した計画見直しを行い了解を得ている。	モニタリングを実施しているが、記録が断続的である。事業所の仕組みとして 継続可能な方法を決め、定着させることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日記録を作成する中での気づき等が出てきた場合毎日の申し送りや、職員会議の中で話し合い、共有、実践できるよう心がけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度変化するニーズに柔軟に対応できるよう心がけています。施設内だけに囚われず、ニーズに応じ、室内外問わず、柔軟に対応させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	生活支援を主と捉え、支援させて頂いています。「喜んでやりましょう」「喜んで行きましょう」等ご本人様が自然と体が動く事柄を生活歴や、日々の関わりの中より発見し、近隣のお店、野球観戦、居酒屋等、全てを社会資源と捉え取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前にかかりつけ病院受診の継続か、往診、協力医の受診かを選んでいただきます。いつでも変更可能で、その都度ご本人、家族、医療職等相談をし、納得いく医療を受けられるよう心がけています。	契約時にかかりつけ医について説明し、選択していただいている。遠方への通院は家族にお願いするが近くであれば職員がお連れしている。月2回の内科医の往診のほか、希望により歯科医やマッサージの往診も利用していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと連携し、医療ノートを作り、受診状況、身体状況等記録し、訪問時に報告を行うか、都度連絡をし助言、意見を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は定期的にお見舞いに伺い現状把握に努めています。また、日頃より協力医の先生には電話等で相談することが多く、良好な関係が築けていると思っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当グループホームで看取りの実績があり、一定の状態になられた際にご本人、ご家族との面談を行い意思確認を行い、その後関係機関と相談し、ご本人、ご家族の意向に沿えるよう取り組んでいます。	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」の書類を提示して説明している。必要な際には関係者で話し合いを行って方針を決めて支援を行っている。看取りの方針を確認した場合は、同意書を交わして更に確認し、看取りケアプランを作成して支援内容を確認・共有して支援に取り組んでいる。昨年から2件の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回、消防訓練を行う中に取り入れ訓練を行っていますが、職員の入れ替わり等あり、全員の周知には不安が残ります。引き続き、訓練等で周知できるよう努力します。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防訓練を行う中に取り入れ訓練を行っていますが、緊急時同様、周知には不安が残ります。地域との連携は良好で、連絡簿の作成、避難場所の確認等話し合いを行っています。また、地域の防災訓練にも参加させて頂いています。	年2回の消防避難訓練を消防署指導の下で行っている。地域の防災訓練も行われており、職員が参加している。自治会の連絡網にも加えていただいで運営推進会議で防災についての話し合いを行うなど協力体制が出来ている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	原則、敬語を使うことで、大人として接する事をどなたに対しても心に置き支援させて頂いています。また、日々の声かけが、支持的、指導的な表現にならないよう指導を行っています。	原則的に敬語を使うことで職員に意識づけを行っている。事業所内に接遇委員会を設置して、不定期に問題点を話し合って全職員へ対策を展開している。個人情報ファイルは日常的に使用するものも含めて所定の場所に保管し、改善された。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	～どうしますか？～というように言葉の最後に？をつけることで、極力ご本人に選択していただけるよう気をつけています。一方的に話を決めず、言いやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起きたいときに起き、寝たい時に寝る、食べたい時に食べ、出たいときにでる。を目標に振り返りを行いながら支援させて頂いています。食事の開始時間、活動頻度、入浴回数等、個人個人様に行われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	介助しやすい服ばかりを優先するのではなく、ご本人に着替える際は服を選んでいただいています。また、服を買う際は一緒に買いに行き、好きな絵柄等選んでいただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の位置づけはとても重要で、基本的には皆さん同じ献立をお出ししておりますが、麺は苦手等対応できる範囲で別メニューやパン食とご飯等選択できるよう取り組んでいます。献立もご利用者様の意見を聞きながら行っています。	ユニットごとにそれぞれ利用者の希望を尊重しながら食事を楽しんでいただいている。全食手作りをしており、希望する利用者とともに買い物や準備や片付けをし、一緒に食事をしている。旬の食材や菜園の収穫も食卓を彩っている。誕生日や行事の特別食も楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々嗜好の把握に努め、ご本人の希望される食物を献立に取り入れています。また、飲み物を複数用意し、飲みやすい物をお出ししています。栄養士の配置がないため、バランスや、カロリーに関する課題は残っております。毎日晩酌される方もおられます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアの実施と、必要に応じ歯科往診にて、口腔内の清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	少人数制のメリットを活かし、個々の排泄パターンを把握し、個別に誘導等支援を行っています。	現在、半数の利用者が自立で排泄できる。必要な利用者の排泄記録を取り、傾向を把握してトイレ誘導を行っている。夜間は睡眠や転倒リスクに配慮して、おむつやパットも利用する支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要に応じ医療機関に相談をしながら薬等の使用も検討しますが、日々の運動や、食べ物を工夫することで便秘の解消に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は毎日午後より実施しております。好きな方は毎日入っておられます。身体状況によりですが夜間浴も実施しております。	週2回以上をめぐりに入浴の支援を行っている。多い利用者は毎日の場合もある。入りたがらない利用者には利用者ごとに様々な声掛けの工夫を行っている。支障がなければ希望により夜間に入浴していただくこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床、消灯時間を設けず個々のリズムで寝起きできるよう取り組んでいます。日中も年齢や、状況に応じた支援し、強制的に起きていただくような支援は行わないようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方が変わったり、体調変化が出た際等、その都度主治医や、訪問看護、薬剤師と連絡をとり、状況把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎晩晩酌される方、野球観戦、玄関の生花創作、調理、花の水やり等、個々の趣味、興味のある事柄を中心に計画し、気分転換に繋がるよう努めています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の勤務の中にフリーの職員を配置し、出たいときに出る、やりたいときにやる等、ご本人の今～したいという思いに応えられるよう心がけています。近隣のお店等だけでなく、お墓参りや、美術館、映画館、植木市等個人の関心のある場所へ積極的に出かけております。	日常的に、洗濯物干し・家庭菜園の手入れ・テラスでの散歩などを行っていただいている。フリーの職員によって週1回～月1回程度の外出を楽しんでいただいている。急な希望にもできるだけ対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いという形でお金を預かり、個人の買い物や、食材の買い物時に生活風景を実感していただく為に、可能な方には支払いまで行っていただくこともあります。また、ご家族の同意のもと、小額ですが自己管理されている方もおられます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	近年、携帯電話を持ち込まれる方も増えましたが、ご本人から要望がありましたら、ご家族に連絡し、精神的な安心につながるよう努めています。また、お盆や、お正月、荷物が届いた際等、定期的にお手紙を書いていただく事もあります。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的には職員が主となり、高齢者の方にあわせた環境整備を行っています。ご利用者、ご家族より意見を頂いた場合は変更できるよう積極的に取り組んでいます。	住宅街にあり、静かで落ち着いた環境がある。傾斜のある入り口や階段には昇降機が備え付けられている。駐車場の屋上が広いテラスのように利用でき、バーベキュー会場や物干し、散歩、菜園スペースとなっている。リビングはテラスに繋がる掃き出し窓があり、自然光がよく入る。複数のテーブルが置かれ、対面式キッチンが隣接し、職員に見守られながら、それぞれに過ごすことができる。壁や棚に自然な飾り付けがなされて、季節の生花なども飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一緒に買い物に出かけたり、お部屋で会話をされ過ごされる方もおられます。人付き合いが苦手な方は、ご本人のストレスにならない範囲で職員が介入し、関係構築に努めています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	極力、新品ではなく、使っていた馴染みの物を持ってきていただけるようお願いをしています。入居後もご本人、ご家族が中心となり工夫をされています。刃物以外は原則何を持ってこられてもかまいません。	カーテン・エアコン・照明が備え付けられ、ベッド・寝具・タンス・仏壇・生活用品・装飾品が持ち込まれ、利用者それぞれに部屋づくりがされている。清掃も行き届いて清潔に維持されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	高齢者に合わせた構造になっておりますので、特別な工夫はないと思いますが、今後も含め柔軟にとらえ、ご意見等ありましたら、随時変更、工夫等していきたいと思っております。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

### 3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。  
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

#### 【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ( )
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ( )
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="checkbox"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④ その他 ( )
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="checkbox"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ( )
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="checkbox"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="checkbox"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="checkbox"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ( )

## 2 目標達成計画

事業所 グループホームすまいる

作成日 平成 28 年 7 月 11 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ケアプランに沿ってケアを行っているものの反省点、改善点、良い点などが細かく記入がされておらず判断がしにくい。	細かにモニタリングを活用しそれを元にケアプランを計画、実行できるようにする。	1ヶ月ごとからでも状態が分かるようなモニタリングの様式を考え、作成する。	6ヶ月
2	5	身体拘束について、新人研修として利用者体験を通じて研修を行っているが、継続して行われていない。	毎年内外の研修を行い、継続的に身体拘束についての知識などを身につけていく。	年間計画に身体拘束の研修を取り入れ、接遇委員会の中でも議題に取り上げるなどして、身体拘束をしないケアに取り組む。	1ヵ年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。